検索ボックス

検索

<< 2025年02月 >>

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | |

最近の記事

(02/07)鳥インフルエンザ（H5N1）の人感染
(02/06)鳥インフルエンザに季節性のワクチンは有効か？
(02/04)鳥インフルエンザの予備知識
(02/01)アレルギー性鼻炎の鼻腔内治療と経口治療の比較
(01/31)エピペンの劣化について

最近のコメント

鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用 by (09/13)
23価肺炎球菌ワクチンの局所反応 by (07/11)
急性心不全のラシックスの効果減弱 by (06/10)
小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について by (05/02)
Ⅱ型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について by (04/19)

タグクラウド

カテゴリ

小児科(263)
循環器(321)
消化器・ＰＰＩ(187)
感染症・衛生(333)
糖尿病(162)
喘息・呼吸器・アレルギー(125)
インフルエンザ(119)
肝臓・肝炎(67)
薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導(58)
脳・神経・精神・睡眠障害(76)
整形外科・痛風・高尿酸血症(45)

<< 糖尿病治療薬のSGLT-2阻害薬とGLP-1作動薬の比較 | TOP | 新型コロナ感染とギランバレー症候群 >>


2021年10月11日

## GLP-1作動薬について

**GLP-1作動薬について**

＜勉強会＞

糖尿病治療薬は多岐にわたり、選択肢が広がっています。
患者さんも、どの位置にいるのか判断が迷うと思います。
混同しないためにもGLP-1受容体作動薬（以下GLP-1作動薬）を解説するついでに、他の治療薬もおさらいしてみます。

**DPP阻害薬**
インクレチンは食事に伴って消化管から分泌され、インスリン分泌を促進するホルモンの総称である。
インクレチンには、小腸のK細胞から分泌されるグルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド（ＧＩＰ）と、L細胞から分泌されるグルカゴン様ペプチドー1（ＧＬＰ-1）の2種類がある。
それぞれが受容体に結合すると膵臓のβ細胞が刺激され、インスリンの分泌が促進される。
インクレチンは分泌後DPP-4により速やかに不活化される。
DPP-4阻害薬は、GLP-1作動薬と共にインクレチン関連薬と呼ばれる。
DPP-4阻害薬はDPP-4を阻害し、インクレチンの不活化を抑制することでインスリン分泌を促進し、グルカゴンの分泌を抑制して血糖降下作用を示す。

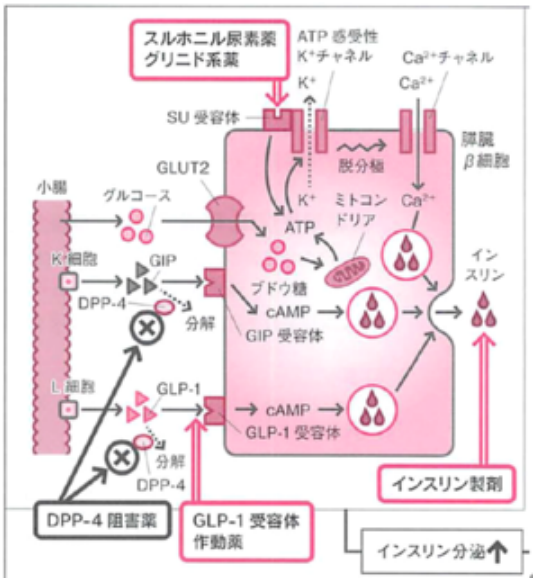
**GLP-1作動薬**
GLP-1作動薬は小腸のL細胞を刺激してインスリンを分泌させる。
GLP-1作動薬はDPP-4阻害薬よりもインクレチン濃度を上昇させるため体重減少が著明になる。
GLP-1受容体は膵臓以外に神経、消化管にもあるため、食欲不振、胃排出抑制、体重減少を引き起こす。
短時間作用型のバイエッタは1日２回、リキスミアは1日1回、長時間作用型のビクトーザは１日1回、トルリシティとオゼンピックは週1回の皮下注射です。

ワクチン(99)
癌関係(14)
脂質異常(31)
甲状腺・内分泌(22)
婦人科(20)
泌尿器・腎臓・前立腺(65)
熱中症(7)
日記(31)
その他(103)

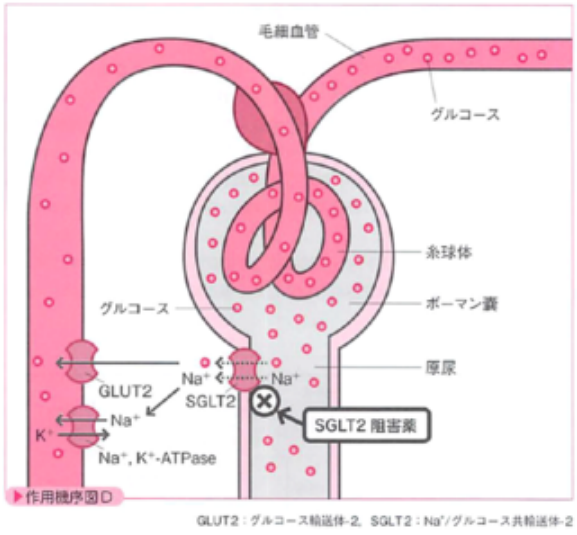
過去ログ

2025年02月(4)
2025年01月(16)
2024年12月(14)
2024年11月(12)
2024年10月(13)
2024年09月(14)
2024年08月(12)
2024年07月(15)
2024年06月(14)
2024年05月(14)
2024年04月(12)
2024年03月(14)
2024年02月(13)
2024年01月(19)
2023年12月(17)
2023年11月(13)
2023年10月(15)
2023年09月(12)
2023年08月(16)
2023年07月(15)
2023年06月(14)
2023年05月(15)
2023年04月(15)
2023年03月(15)
2023年02月(14)
2023年01月(15)
2022年12月(12)
2022年11月(16)
2022年10月(15)
2022年09月(13)
2022年08月(17)
2022年07月(13)
2022年06月(15)
2022年05月(15)
2022年04月(14)
2022年03月(15)
2022年02月(14)
2022年01月(16)
2021年12月(14)
2021年11月(17)
2021年10月(17)
2021年09月(13)
2021年08月(16)
2021年07月(12)
2021年06月(16)
2021年05月(16)
2021年04月(14)
2021年03月(18)
2021年02月(19)
2021年01月(16)
以降はカテゴリーで検索してください。

RDF Site Summary
RSS 2.0




**SGLT-2阻害薬**
SGLT-2は腎臓の近位尿細管に特異的に発現し、糖再吸収の90%を担っている。
SGLT-2阻害薬はSGLT-2を特異的に阻害し、近位尿細管における糖の再吸収を抑制して血糖の上昇を抑える。




**本院のGLP-1作動薬**
当初よりGLP-1作動薬の注射薬を使用していましたが、副作用の吐き気と製品の不具合から出鼻をくじかれた感で採用を控えていました。
最近、インスリン+ GLP-1作動薬の合剤（ゾルトファイ）とGLP-1作動薬の経口薬（リベルサス）が上市され有効性が本院でも認められています。（下記のPDFを参照）
今後は他のGLP-1作動薬注射薬も患者さんの適応を絞って採用してみようと思っています。

私見）
ゾルトファイ注射ではほとんど吐き気がなく、リベルサスは、もしかして隔日服用も可能との事で初期投与の場合は、これも副反応の軽減に有効と感じています。　（下記PDF参照）
今後はGLP-1作動薬も徐々に採用してまいります。
下記のPDFをご参照ください。

◆参考文献

・薬の作用が手に取るようにわかる本　　黒山政一　　じほう
・薬のデギュスタシオン　　岩田健太郎　　金芳堂
・medical practice V 32 N1 2015
・medical practice V34 N9 2017

1 GLP-1 PDF.pdf

2 ゾルトファイ.pdf

3 リベルサス.pdf

4 oral-glp-1-diabetes-treatm.pdf

5 リベルザス文献.pdf

0　0
いいね！
ポスト　ブックマーク

【糖尿病の最新記事】
糖尿病治療薬・補足説明
糖尿病の薬物療法・2025
チョコレートと糖尿病との関係
週1回注射のインスリン・エフシトラ
肥満治療と糖尿病予防のためのマンジェロ

posted by 斎賀一 at 20:08| Comment(0) | 糖尿病

**この記事へのコメント**

Powered by さくらのブログ